

第59回奥羽大学歯学会

プログラム・予稿集

日 時：平成27年6月20日(土) 10:55～14:40

口演発表(午前の部) 11:00～12:10

総会・評議員会 13:00～14:00

口演発表(午後の分) 14:10～14:40

会 場：奥羽大学歯学部病院棟5階臨床講義室

福島県郡山市富田町三角堂31-1

☎024-932-8931

奥羽大学歯学会

お 願 い

会員の方へ：

1. 受付は会場入口に設けます。
2. 会場の座席は順番につめて着席して下さい。
3. 討議にはマイクをご利用下さい。

発表の要領：

1. 口演の演者は発表当日までに、所定の事後抄録を金（E-mail：h-kon@den.ohu-u.ac.jp）までテキスト添付にてご送信下さい。（800字程度）
2. 口演発表
 - 1) 液晶プロジェクターによる口演
 - ①単写のみです。
 - ②事前にデータファイルの提出をお願いします。
※USBフラッシュメモリーで提出して下さい。
※データファイルはMicrosoft社のPower Pointに限ります。またファイルサイズは10Mバイト以下でお願いいたします。
 - ③学会当日はお持ちいただいたデータの内容をこちらで用意したコンピュータで実行しますので、発表用のPCを当日ご用意していただく必要はありません。
 - ④こちらで用意できるコンピュータのOSはWindowsおよびMac OSのみです。これらの環境下での動作確認を必ず行って下さい。
 - ⑤学会開催前日午後6時に会場において試写を行います。データをお持ちになり学会会場にお集まり下さい。
※ソフトウェアのバージョン等によっては用意したPCでは動作しない場合も考えられますので、可能でしたらご自分のPCと電源も一緒にお持ち下さい。
 - ⑥運営を支障なく円滑に行うため、ファイルの容量を極力抑えて下さいますようお願いします。
 - 2) 口演時間
演者は、口演開始10分前に次演者席に着席して下さい。
口演時間は口演8分、討論2分の計10分です。
時間の経過については、下記の合図で知らせます。
7分経過（口演終了1分前）；ベル1回
8分経過（口演終了）；ベル2回
10分経過（質疑終了）；ベル3回
なお、口演終了後も座長の交代まで会場内でお待ち下さい。

座長をなさる方へ：

1. 口演時間の厳守をお願いします。
2. 次の座長の方は5分前までに次座長席にお着き下さい。

第59回奥羽大学歯学会プログラム

10:55 開会の辞

清浦有祐 副会長

一口演発表(午前の部)ー

11:00～11:10

座長 関根 秀 志

1. ラット脛骨骨欠損部位の治癒過程に及ぼす半導体レーザーの影響について

○山崎崇秀

(奥羽大・大学院・歯内・歯周療法)

研修コード0501 関連項目 (1) 1101

11:10～11:20

2. 奥羽大学歯学部附属病院におけるEr:YAGレーザーの使用状況について

○佐藤穂子、木村裕一、西村 翼、山本雄介、五十嵐一彰¹、奈田憲二¹、
清野晃孝²、保田 譲²、小松泰典²、加川千鶴子³、甲斐有紀子³、
山崎崇秀⁴、高橋俊智⁵、高橋慶壮、島村和宏³、杉田俊博²

(奥羽大・歯・歯科保存、奥羽大・歯・歯科補綴¹、奥羽大・歯・附属病院²、
奥羽大・歯・成長発育歯³、奥羽大・大学院・歯内・歯周療法⁴、
奥羽大・大学院・小児歯科⁵)

研修コード1001 関連項目 (1) 0501 (2) 0801

11:20～11:30

3. 歯科矯正用アンカースクリューを用いた開咬を伴う下顎後退による上顎前突症例

○竜 立雄¹、南條章太郎²、渡辺 敦¹、三村千春³、福井和徳¹

(奥羽大・歯・成長発育歯¹、三軒茶屋矯正歯科クリニック²、
奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正³)

研修コード0802 関連項目 (1) 0603 (2) 0701

11:30～11:40 休憩

11:40～11:50

座長 高 田 訓

4. 放射線診断学講座におけるエレクトィブスタディ講義内容に関する実験的検討
(平成27年度)

○原田卓哉、茂呂祐利子、渡部剛史

(奥羽大・歯・放射線診断)

研修コード0202 関連項目 (1) 0299 (2) 9999

11:50 ~ 12:00

5. 口腔扁平上皮癌細胞の酸性細胞外pHへの長期曝露による癌幹細胞濃縮の誘導

○湯澤 仁¹、鈴木厚子¹、馬場 優²、前田豊信¹、加藤靖正¹
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・総合臨床医²)

研修コード1107 関連項目 (1) 0502 (2) 1102

12:00 ~ 12:10

6. 会津医療圏における会津中央病院歯科口腔外科の位置付け

○宮島 久、重本心平、竹内聡史、吉開義弘
(会津中央病院歯科口腔外科)

研修コード0199

12:10 ~ 13:00 休憩

13:00 ~ 14:00 総会・評議員会

14:00 ~ 14:10 休憩

一口演発表(午後の部)

14:10 ~ 14:20

座長 宮島 久

7. 歯肉退縮による審美障害に対してパウチ法による結合組織移植術を用いて根面被覆を行った症例

○川西 章、山本雄介、羽鳥智也、高橋慶壮
(奥羽大・歯・歯科保存)

研修コード0501 関連項目 (1) 0414 (2) 0599

14:20 ~ 14:30

8. 本学附属病院で採用した自費用CRの1症例

○渡邊 崇、佐藤健太、保田 穰、清野晃孝、杉田俊博
(奥羽大・歯・附属病院)

研修コード0403 関連項目 (1) 0404 (2) 0414

14:30 ~ 14:40

9. 認知症高齢者の食形態を改善してADLを向上させた1例

○鈴木史彦¹、小松泰典²、北條健太郎²、山崎信也¹、高田 訓¹
(奥羽大・歯・口腔外科¹、奥羽大・歯・附属病院²)

研修コード0704 関連項目 (1) 0806 (2) 0808

14:40 閉会の辞

杉田俊博 副会長

口 演 発 表 抄 録

11 : 00 ~ 11 : 10

1. ラット脛骨骨欠損部位の治癒過程に及ぼす半導体レーザーの影響について

○山崎崇秀

(奥羽大・大学院・歯内・歯周療法)

骨組織は、メカニカルフォースを含めた物理学的刺激に反応する組織であると考えられている。歯科用レーザーをメカニカルフォースとして捉え、様々な実験が行われているが、骨代謝関連における検討は少ないのが現状である。

本研究では、ラット脛骨に骨欠損モデルを作製し、半導体レーザー ($\lambda=910\text{nm}$) を照射して、骨欠損部位の治癒過程にどのような影響を及ぼすのかを組織形態学的かつ免疫組織化学的に観察した。その結果、骨代謝領域における知見を得たので報告する。

研修コード0501 関連項目 (1) 1101

11 : 10 ~ 11 : 20

2. 奥羽大学歯学部附属病院におけるEr : YAGレーザーの使用状況について

○佐藤穂子、木村裕一、西村 翼、山本雄介、五十嵐一彰¹、奈田憲二¹、

清野晃孝²、保田 譲²、小松泰典²、加川千鶴子³、甲斐有紀子³、

山崎崇秀⁴、高橋俊智⁵、高橋慶壮、島村和宏³、杉田俊博²

(奥羽大・歯・歯科保存、奥羽大・歯・歯科補綴¹、奥羽大・歯・附属病院²、

奥羽大・歯・成長発育歯³、奥羽大・大学院・歯内・歯周療法⁴、

奥羽大・大学院・小児歯科⁵)

これまでに齲蝕治療、歯内治療、歯周治療などさまざまな歯科臨床分野で歯科用レーザーが活用されている。平成20年度からEr : YAGレーザーを用いた窩洞形成が、平成22年度から歯周外科手術時の歯石除去が保険対象となった。本学附属病院総合歯科診療室でも平成26年以降、Er : YAGレーザーが導入されている。今回、附属病院におけるEr : YAGレーザーの使用状況を知る目的で、①使用目的、②診断名、③照射条件、④使用チップの種類について調査したので報告する。

研修コード1001 関連項目 (1) 0501 (2) 0801

11 : 20 ~ 11 : 30

3. 歯科矯正用アンカースクリューを用いた開咬を伴う下顎後退による上顎前突症例

○竜 立雄¹、南條章太郎²、渡辺 敦¹、三村千春³、福井和徳¹

(奥羽大・歯・成長発育歯¹、三軒茶屋矯正歯科クリニック²、

奥羽大・大学院・顎顔面口腔矯正³)

顎骨を固定源として歯の移動を行う歯科矯正用アンカースクリューは、今まで困難であった大白歯の遠心移動や圧下を行うことができ、患者の協力を必要とせず歯の移動が可能である。歯科矯正治療において開咬を伴う下顎後退による上顎前突症例は難易度が高く、垂直的にも前後的にも骨格性要因が大きい成人患者においては外科的矯正治療を必要とする場合が多い。

そこで今回、骨格性開咬および下顎後退による上顎前突の成人症例に歯科矯正用アンカースクリューを適用し、矯正治療単独で非抜歯にて動的治療を終了したので報告する。

研修コード0802 関連項目 (1) 0603 (2) 0701

11 : 40 ~ 11 : 50

4. 放射線診断学講座におけるエレクトィブスタディ講義内容に関する実験的検討(平成27年度)

○原田卓哉、茂呂祐利子、渡部剛史

(奥羽大・歯・放射線診断)

奥羽大学では2015年度より「エレクトィブスタディ」(Elective Study, ES)として週2コマのエキストラな講義を計画している。そこで歯科放射線学においてよりよい学習経験を学生に獲得させるため、ESに対応できる講義内容を検討したところ、若干の知見が得られたのでその概要を報告する。

研修コード0202 関連項目 (1) 0299 (2) 9999

11:50 ~ 12:00

5. 口腔扁平上皮癌細胞の酸性細胞外pHへの長期曝露による癌幹細胞濃縮の誘導

○湯澤 仁¹、鈴木厚子¹、馬場 優²、前田豊信¹、加藤靖正¹
(奥羽大・歯・口腔機能分子生物¹、奥羽大・歯・総合臨床医²)

癌の再発・転移には、薬物抵抗性ならびに放射線抵抗性を有し造腫瘍性の高い癌幹細胞の存在が重要であるという報告が多々あるが、その誘導や維持の機構は不明な点が多い。

今回我々は、癌細胞の糖代謝により形成される酸性細胞外 pH 環境に長期曝露した癌細胞自身が、ヌードマウスへの移入後の腫瘍形成、超低接着培養プレート上での Sphere 形成、癌幹細胞マーカーである CD44や CD133の遺伝子発現の上昇など、癌幹細胞様の性質を獲得することを見出したので報告する。

研修コード1107 関連項目 (1) 0502 (2) 1102

12:00 ~ 12:10

6. 会津医療圏における会津中央病院歯科口腔外科の位置付け

○宮島 久、重本心平、竹内聡史、吉開義弘
(会津中央病院歯科口腔外科)

会津中央病院歯科口腔外科は平成12年に開設され、以来、会津医療圏の口腔外科的疾患に対する歯科医療の一端を担ってきた。しかし、高齢化の進む地方都市において、総合病院の担う役割は多岐に渡り、近年では様相が変わってきている。口腔外科的疾患に加え、有病者歯科、訪問診療、他科入院患者に対する口腔ケアを始め、摂食嚥下リハや NST への介入など、医科歯科連携が推進されている。今回、これらの実情を把握する目的に検討を行ったのでその概要を報告する。

研修コード0199

14:10 ~ 14:20

7. 歯肉退縮による審美障害に対してパウチ法による結合組織移植術を用いて根面被覆を行った症例

○川西 章、山本雄介、羽鳥智也、高橋慶壮
(奥羽大・歯・歯科保存)

我々は歯肉退縮による審美障害を訴える2名の患者に対して、結合組織移植術を用いた根面被覆を行った診断および治療結果の詳細を報告する。

患者は22歳および29歳の女性でいずれも歯肉退縮による審美障害を主訴に来院した。初診時の主訴部位は Miller の歯肉退縮の分類クラス1またはクラス2であった。同部に対しパウチ法による結合組織移植術を行い、良好な結果を得た。

研修コード0501 関連項目 (1) 0414 (2) 0599

14:20 ~ 14:30

8. 本学附属病院で採用した自費用CRの1症例

○渡邊 崇、佐藤健太、保田 穰、清野晃孝、杉田俊博
(奥羽大・歯・附属病院)

前年度本学附属病院で採用された自費用光重合型審美修復用ナノコンポジットレジン・ジーシーカラーを用いた上顎前歯部の修復を経験したので報告する。

患者は33歳、男性で以前行った上顎前歯部 CR 充填部の色調不良を主訴に来院した。

修復の際、打ち抜き型窩洞になる部位については予めシリコンジグを作成し、マルチレイヤーテクニックを用いて審美的な回復を図った。

研修コード0403 関連項目 (1) 0404 (2) 0414

14:30 ~ 14:40

9. 認知症高齢者の食形態を改善してADLを向上させた1例

○鈴木史彦¹、小松泰典²、北條健太郎²、山崎信也¹、高田 訓¹
(奥羽大・歯・口腔外科¹、奥羽大・歯・附属病院²)

認知症高齢者の摂食嚥下障害には、機能訓練よりも介助や支援を必要とすることが多い。今回、認知症高齢者の摂食嚥下機能を食形態から改善できた1例を紹介する。

患者は69歳の女性。絞扼性腸閉塞にて入院加療後、老健に再入所となった。食形態は重湯をストローで緩慢に摂取していた。嚥下内視鏡検査で全粥摂取が可能なることを評価し、食形態を変更したところ、4か月経過時ではスプーンを使って全粥を自力摂取できるまで改善が見られた。

研修コード0704 関連項目 (1) 0806 (2) 0808

第60回奥羽大学歯学会予定
日時：平成27年11月14日(土)

—歯学会学会委員—

福井和徳(成長発育歯)*、金 秀樹(口腔外科)*、宇佐美晶信(生体構造)*、
山崎信也(口腔外科)、島村和宏(成長発育歯)、菊井徹哉(歯科保存)、
車田文雄(口腔衛生)、前田豊信(口腔機能分子)、古山 昭(口腔機能分子)、
大橋明石(口腔衛生)

*学会理事
